

(4) デジタル人材育成事業について【応募者19名】

定義

部局・所属におけるメリット

秋田県への効果

高度専門人材と一般行政職員との橋渡しを行うとともに、所属部局のDXの取組をリードする職員
(中期人事ビジョン上の定義)

⇒「誰もやらなければ自分がやる」

自律的に動き、周囲を巻き込む**変革リーダー**

⇒ 部局・所属のDX推進
⇒ 職員のモチベーションアップ

⇒ 県庁組織が「指示待ち」から「自走型」へ進化
⇒ 課題解決スピードを劇的に向上させる

R7: GWSエバンジェリスト

- デジタル政策推進課の普及活動を「支援」(マルチワーク)
- 草の根活動が中心

位置づけを抜本的見直し ↓

R8: DXエバンジェリスト(・ネクスト)

「人材育成像」の中核へ

- 「中期人事ビジョン」への位置づけ(人事課)
- 職員提案との連携(行政経営課)
- 研修の実施(デジタル政策推進課)
- DXアワードでの成果発表や提言の場を用意(デジタル政策推進課)

育成プログラム

● 初期集中研修 (6-8月)3回

課題発見・業務再設計・合意形成術のスキル取得

● グループワーク(通年)

各部局から持ち寄った課題等の解決策を検討

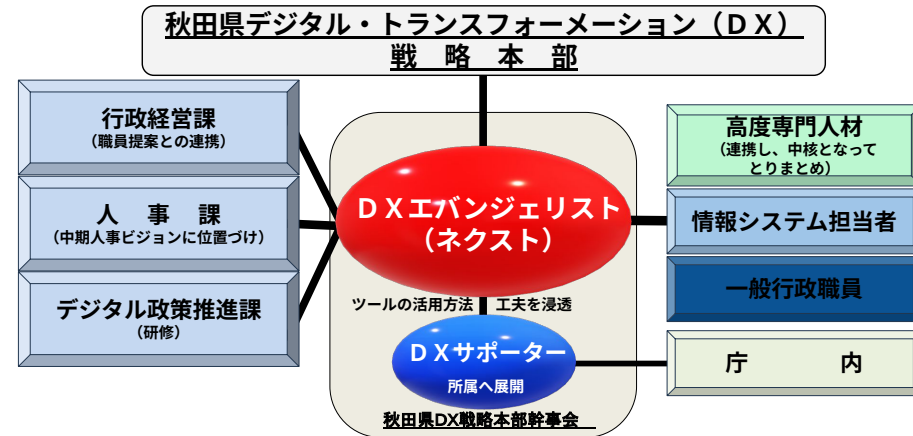
● ナレッジ共有の勉強会と展開

DXエバンジェリスト・ネクスト間での成功事例の共有と、DXサポーターを通じた展開

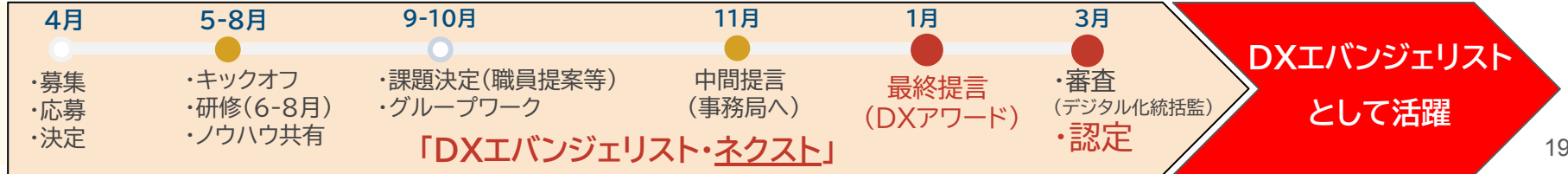
● DXアワードでの提言

各部局の課題解決に資する提言

<DXエバンジェリスト体制イメージ>

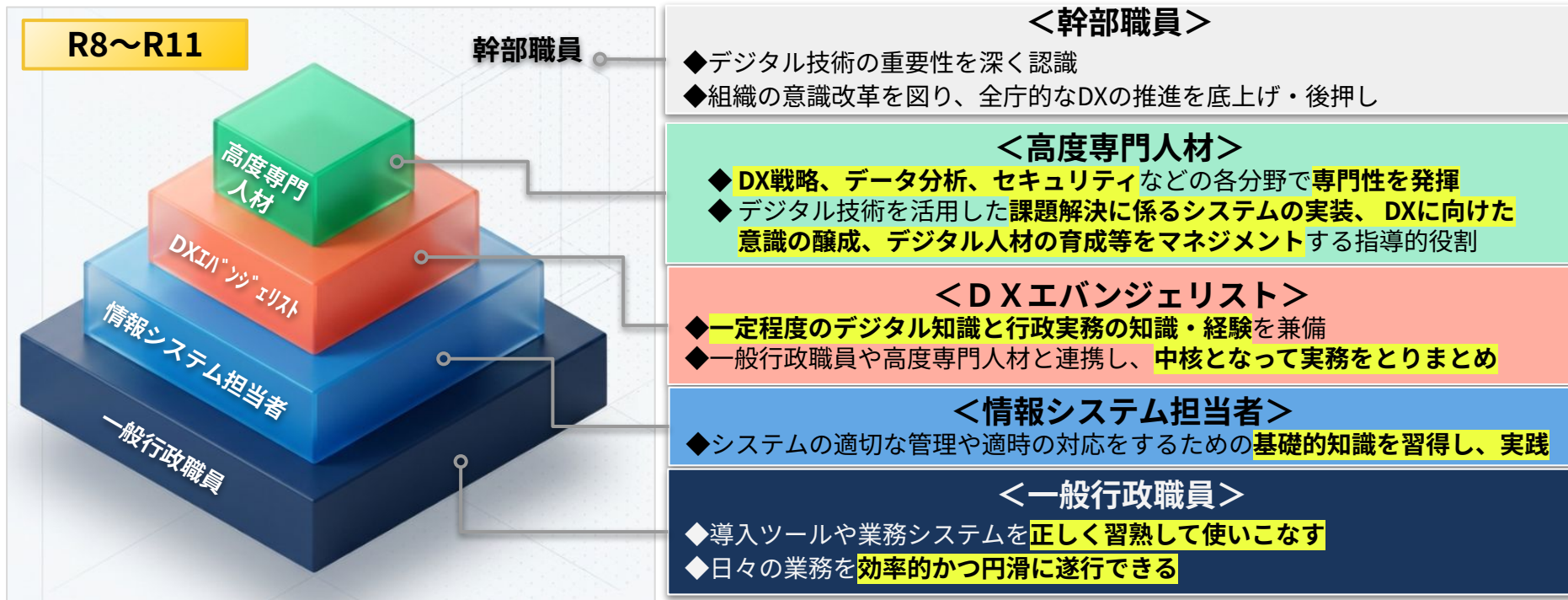


スケジュール



(4) デジタル人材育成事業について

役割や階層に応じた人材像を明確にし、研修や国家試験受験の経費補助などにより戦略的・重点的に取り組む。



<主な変更点>

- ・人材像を明確に定義
- ・DXエバンジェリストの育成 (研修の受講及びワーキンググループにおける活動を通じて知識・技能の習得に努め、庁内のデジタル化、DXの推進を牽引・・・GWSエバンジェリストを発展)